

事業所番号: 1156508457

実施日: 令和4年1月13日

締め切り: 令和4年1月25日

住所: さいたま市大宮区上小町787-6

電話: 048-783-4621

運営会社: YOSHIDA合同会社

代表: 吉田常子

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	事業所としての 実施事項、改善目標、工夫点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室スペースとの関係で適切であるか	6	3	0	指導訓練室をより広く使えるように、無駄な物は置かない等の工夫をしています。また、子ども達が飽きないように晴れた日には公園や散歩にお出かけし、気分転換できるようにしています。
	2	職員の配置数は適切であるか	6	3	0	児童の個別特性に合ったきめ細かい支援が出来るように必要に応じて支援員を増員しています。今後は、ドライバーの増員を検討したいと思います。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮がなされているか	8	0	1	キッチンとトイレに段差があります。子供達が転ばないように注意しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	5	4	0	子供達の特性やそれに応じた支援方法を話し合う現場会議を開催し、その結果を昼礼等で共有化していきたいと思います。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9	0	0	保護者に対してアンケート調査を実施し、その結果をスタッフで確認・討議し、保護者の意見を反映しながら業務の改善につなげています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7	2	0	保護者向けアンケート評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を実施し、その結果による改善の内容・施策等を事業所のホームページで公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	6	2	1	現在、第三者による外部評価は実施していませんが、コロナ終息後、保護者の方などに室内を見てもらい改善点を指摘して頂くことを考えています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8	1	0	現在、コロナ禍で外部研修への参加が難しい状況ですが、リモート研修への参加などを推奨・実施しています。また、スタッフが講師となり社内研修も実施しています。今後も研修機会を増やしていきたいと思ます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	7	2	0	アセスメントシートを用い、指導員の意見を広く聴取し、また、保護者との面談等によって要望の把握をおこない個別支援計画を作成しています。作成した個別支援計画は保護者に確認して頂き、同意後、捺印を頂いています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	3	1	標準化されたアセスメントツールを使用し、子どもの発達状況を記録し、支援計画の目標設定に反映させています。全てのスタッフに共有できるようにしていきたいと考えていきます。

## 適切な支援の提供

11	個別支援計画には支援に必要な項目が適切に選択され、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1	0	保護者との打ち合わせに基づき、保護者の要望、子供の発達状況を反映させた具体的な支援目標・支援内容を設定しています。
12	個別支援計画に沿った支援が行われているか。	6	3	0	個別支援計画の目標、課題、支援内容、支援方法に沿って支援を実施しています。パート社員や新しく入社したスタッフへの情報の共有化も進めています。
13	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4	4	1	プログラムを立案する際に、常勤社員だけでなく、パート社員の意見やアイデアを広く聞きながら全員参加でプログラムが立案出来るように雰囲気作りをしています。
14	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	0	0	季節ごとのイベントなども取り入れ、幅広くスタッフの意見を聞きながら、新しいプログラムを導入・立案するようにしています。
15	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6	3	0	休日には季節ごとにイベントや行事を取り入れ、また、春休み・夏休み等の長期休暇の際にも外出プログラムやイベントを取り入れながら支援しています。さらに、決められたプログラムにとらわれず、年齢や特性に応じて別メニューのプログラムも準備しています。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成しているか	7	2	0	子ども達一人ひとりの個別の発達状況に応じて、それぞれの自立に向けた療育と共に、集団生活における社会性を身に付けられるように個別支援計画書を作成しています。
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	2	1	支援開始前、職員で打ち合わせを実施し、その日の支援内容、注意事項、送迎配置等について共有・確認しています。出勤時間が異なるパート社員の方への情報共有化も考慮していきます。
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7	1	1	送迎時間やスタッフの退社時間が異なる等のため、全ての職員での終了時打ち合わせは出来ませんが、可能なスタッフでその日の反省点や問題点を共有したり、また、次の日の予定を確認しています。さらに、翌日のスタッフミーティングやスタッフノートで情報の共有をしています。さらに、必要に応じて電話やLINEで情報の共有化をはかっています。
19	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7	1	1	個人ごとに実績記録票、日々の活動内容、連絡帳などを記録し、支援内容、状況等を記録・保管し、今後の支援の改善につなげています。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援・放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断しているか	6	3	0	6ヶ月ごとにモニタリングを実施し、保護者からの要望を聞き、児童の成長・発達を見ながら支援計画の見直しを行っています。

	21	ガイドランの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	6	3	0	日々の支援活動において、自立支援、創作活動、地域との交流、余暇の提供などの基本活動を複数組み合わせる支援を行っています。
関係機関や保護者との連携	22	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子ども状況に精通した最ふさわしい者が参画しているか	6	3	0	障害児相談支援事業所等からサービス担当者会議への参加要請があった場合には適切なスタッフが参加しています。なお、電話等で子供の状況・様子の確認を受けた際には丁寧に詳しく対応しています。
	23	学校や幼稚園、保育所等の関係機関と情報共有等(年間計画・行事予定等の交換、子ども下校時刻確認)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	8	1	0	学校や幼稚園、保育園等との情報共有、連絡調整は必要に応じて適宜行っています。また、送迎でお迎えに学校や幼稚園、保育園に行った際には、先生から子供達のその日の様子をお聞きし、健康状態や気持ちの状況を確認しています。
	24	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	4	4	1	医療的ケアが必要な児童の受け入れは行っていません。今後、受け入れの予定もありません。
	25	利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8	0	1	現在、必要に応じて、事前に保護者の同意を得た上で関連機関との情報交換を行っています。
	26	学校に入学する場合、または、学校を卒業し放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業等へ移行する場合、それまでの支援内容等情報を提供する等しているか	5	4	0	保護者や学校からの要請があれば、情報の提供や交換を行っていきたく思います。
	27	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7	2	0	児童発達支援センター等とは必要に応じて電話などで支援方法や発達状況等について意見交換をしています。また、セミナー研修には必ず参加しています。
	28	保育所、認定こども園、幼稚園、放課後児童クラブ、児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	3	3	活動プログラムの一つとして科学館や児童館等に遊びに行っています。また、公園に行った際には障害のない子どもと触れ合う機会を持っています。
	29	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	2	4	3	(地域自立支援)協議会へは参加していませんが、社会福祉協議会主催の研修等には参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	8	1	0	連絡帳・電話・送迎の際に保護者から子供の状況を伝えたり、また聞いたりしています。また、LINEで子ども達のデイの様子を保護者に発信しています。
	31	保護者の対応力向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	6	3	0	保護者に対してのペアレント・トレーニング等の支援はまだ十分ではありません。今後、家庭連携支援等を利用し、個々の子供たちの課題を保護者と共有し、療育方法について話し合っていきたいと思っています。

保護者への説明責任等	32	重要事項説明書、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行ない、作成した個別支援計画について保護者から同意を得ているか	8	1	0	契約時、保護者に対して重要事項説明書などを使い、支援内容、サービス提供時間、利用者負担額、個人情報の取り扱い等について丁寧に説明し、同意の上、契約して頂いています。
	33	保護者からの子育て悩み等に対する相談に適切応じ、必要な助言と支援を行っているか	8	1	0	定期的にはモニタリングの際に療育の悩み等をお聞きし相談に乗っています。また、子育ての悩みに関わらず、連絡帳・電話・メール等により相談を受けた際は他の職員と相談しながら丁寧に対応・助言をしています。
	34	父母の会活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	3	3	現在、父母の会はありません。保護者アンケートの結果に基づき、設立の予定もありません。コロナ終息後、以前のように運動会やバス遠足等の保護者参加型イベントを増やしていき、保護者同士の交流を深めていけるようにしていきたいと思えます。
	35	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	0	0	苦情に対して対応責任者、受付担当者を任命し、苦情があった場合には迅速かつ丁寧に対応し、今後の改善施策などを保護者に電話または文書にて通知するか、または自宅に訪問し面談報告しています。
	36	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8	1	0	月1回、会報(えがお便り)を発行し、次月の月間プログラムやデイでの様子をお伝えしています。また、必要に応じて連絡事項や依頼事項を保護者に対して「お知らせ」として配布しています。また、LINEで子供たちのデイでの様子を送付しています。今後は、ホームページもうまく活用していきたいと思えます。
	37	個人情報に十分注意しているか	9	0	0	個人情報の漏洩防止、管理を全職員に徹底しています。また、全職員に対して入社時に個人情報漏洩防止の念書を提出してもらっています。定期的に研修も取り入れていきたいと思えます。
	38	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	9	0	0	言葉を話せない子供に対してはジェスチャーで意思の疎通を図っています。また、そういう子供に対しては指導員がジェスチャーの練習を一緒にしています。
	39	事業所の行事に地域住民を招待する等域住に開かれた事業運営を図っているか	3	4	2	コロナ禍で地域住民の方との交流は難しい時期ですが、近くの公園に行き、地域の子どもや保護者の方との関わり合いを持っています。
	40	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	3	0	マニュアルは策定済みです。今後とも、スタッフへの周知をはかり、また、ホームページ等を利用し保護者への周知も図っていきたくと思えます。さらに、定期的なマニュアルの見直しも進めていきたくと思えます。
41	非常災害の発生に備え、定期的避難救出その他必要な訓練を行っているか	8	1	0	地震・火災・水害の避難訓練をマニュアルに従って実施しています。今後、自立歩行が出来ない児童などの避難方法を考えていきたくと思えます。また、実施後の総括(話し合い)を行い、次の訓練に活かそうにしていきたいと思えます。	

非常時等の対応	42	虐待を防止するため、職員の研修機会確保する等、適切な対応をしているか	9	0	0	コロナ禍で外部研修会への参加が難しい状況の中、月1回の内部研修会を実施しています。
	43	事前にてんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	6	3	0	現在、てんかん発作がある利用者は居ませんが、発作発生時の対応方法などは日頃から研修をしていきたいと思います。
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6	3	0	身体拘束に対するマニュアルを制定しています。なお、現在、定期的に身体拘束が必要な利用者はいません。
	45	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7	2	0	医師からの指示書を直接入手はしていませんが、保護者から医師の指示書に基づいた説明を受け、その説明に従って対応しています。
	46	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8	1	0	その都度、ヒヤリハット報告書等を作成し、スタッフ間で情報を共有した上で保管しています。作成数は増えてきていますが、まだ、反省書のようなイメージがあるため、今後は情報共有化のツールという意識を持てるように促していきたい。